

## 令和7年度エゾシカ航空カウント調査業務 実施結果（速報版）

釧路湿原において越冬するエゾシカの生息状況を把握するために、航空カウント調査を行った。

### 1. 調査範囲

航空カウント調査の調査範囲を図1に示す。過去の調査及び環境研究総合推進費「釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術（平成26～28年度）」（以下推進費事業）で作成された調査ユニットを用い、釧路湿原全域を調査した。

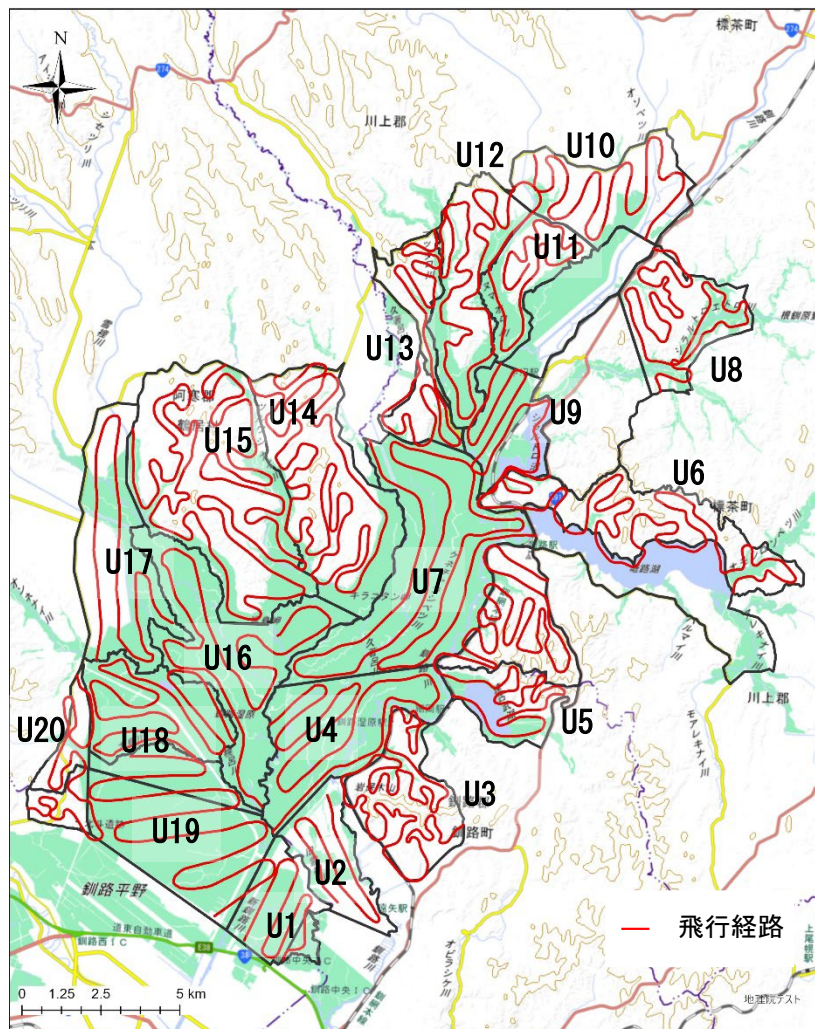


図1 航空カウント調査の調査範囲（黒字：ユニット番号、赤線：飛行経路）

## 2. 調査時期

令和8年2月10日から13日までの4日間、1日あたり1～5時間調査を行った。

## 3. 調査方法

低速で飛行するヘリコプターから目視でエゾシカを観察し、頭数、齢構成等を記録した。通常の調査に加え、見落とし率を算出し密度推定を行うため、通常の2倍の努力量をかける強度調査も実施した。

## 4. 結果

今年度の観察頭数および推定密度（観察条件による見落とし率=1.941で補正）を過去のデータと並べ表1～2、図2～3に示す。

表1 令和7年度のユニット毎の観察頭数および生息密度

ユニット	面積 (km <sup>2</sup> )	観察数 (頭)	推定頭数 (n)	推定密度 (n/km <sup>2</sup> )
U1	7.4	50	97	13.1
U2	7.8	5	10	1.2
U3	11.2	92	179	15.9
U4	16.0	319	619	38.7
U5	16.8	92	179	10.6
U6	14.4	126	245	17.0
U7	27.0	88	171	6.3
U8_1	11.0	129	250	22.8
U9	7.7	44	85	11.1
U10	12.9	70	136	10.5
U11	7.5	11	21	2.8
U12	13.3	117	227	17.1
U13	8.4	55	107	12.7
U14	21.2	112	217	10.3
U15	30.4	775	1504	49.5
U16	20.0	284	551	27.6
U17	16.0	27	52	3.3
U18	11.6	40	78	6.7
U19	21.3	48	93	4.4
U20	5.6	29	56	10.1
合計	287.5	2513	4878	291.7
平均	14.4	125.65	244	14.6

表2 令和2年度と令和7年度の航空カウント調査結果の比較

ユニット	推定頭数 (n)		推定密度 (n/km <sup>2</sup> )		
	R2	R7	R2	R7	R7/R2 (変化率)
U1	73	97	9.8	13.1	1.3
U2	18	10	2.3	1.2	0.5
U3	100	179	8.9	15.9	1.8
U4	227	619	14.2	38.7	2.7
U5	129	179	7.7	10.6	1.4
U6	83	245	5.7	17.0	3.0
U7	424	171	15.7	6.3	0.4
U8_1	181	250	19.5	22.8	1.2
U9	205	85	26.5	11.1	0.4
U10	122	136	9.4	10.5	1.1
U11	210	21	28	2.8	0.1
U12	268	227	20.2	17.1	0.8
U13	226	107	27	12.7	0.5
U14	212	217	10	10.3	1.0
U15	556	1504	18.3	49.5	2.7
U16	636	551	31.5	27.6	0.9
U17	249	52	15	3.3	0.2
U18	52	78	4.5	6.7	1.5
U19	119	93	5.6	4.4	0.8
U20	90	56	16.1	10.1	0.6
合計	4479	4878	296	291.7	1.0
平均	224	244	14.8	14.6	1.0

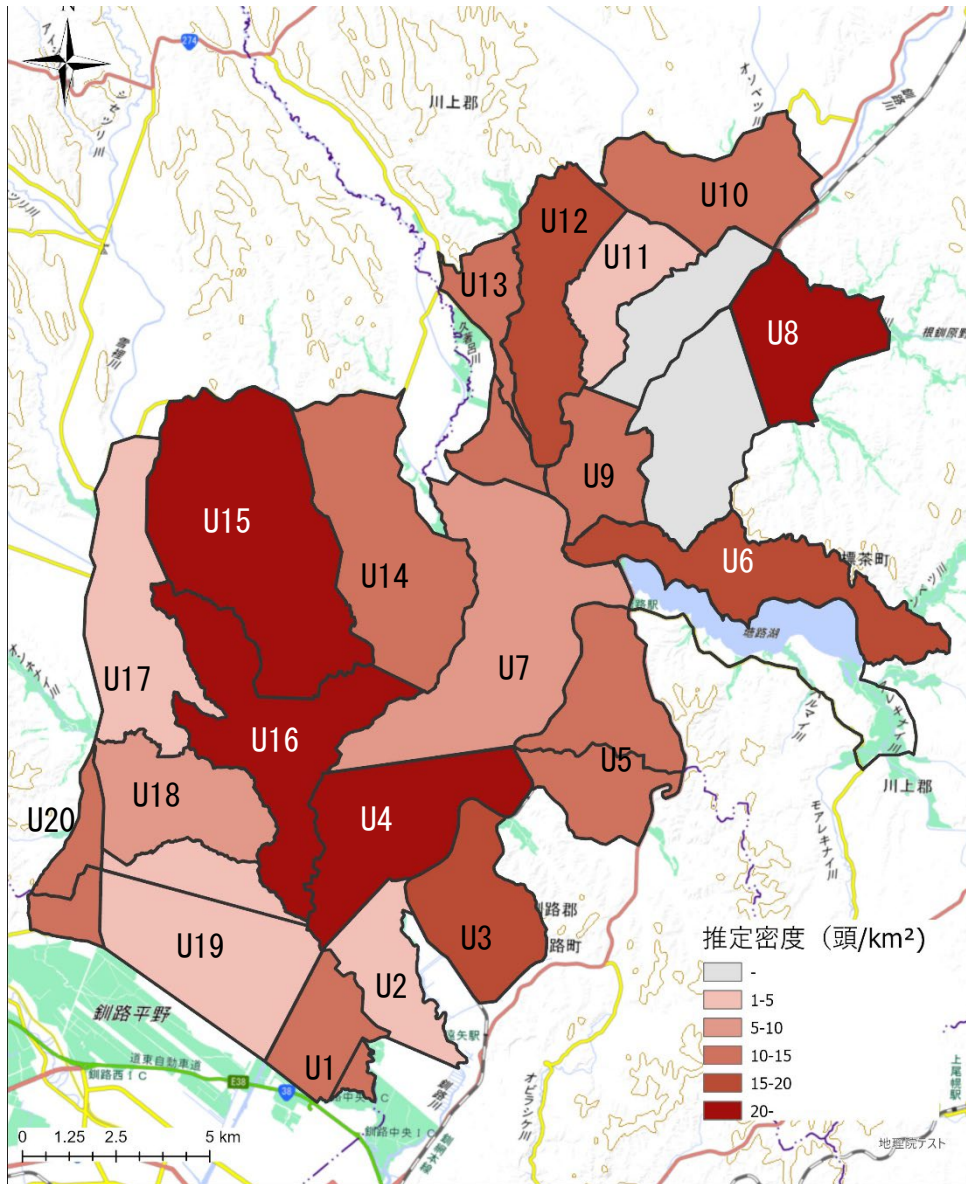


図2 令和7年度のユニット毎の推定密度

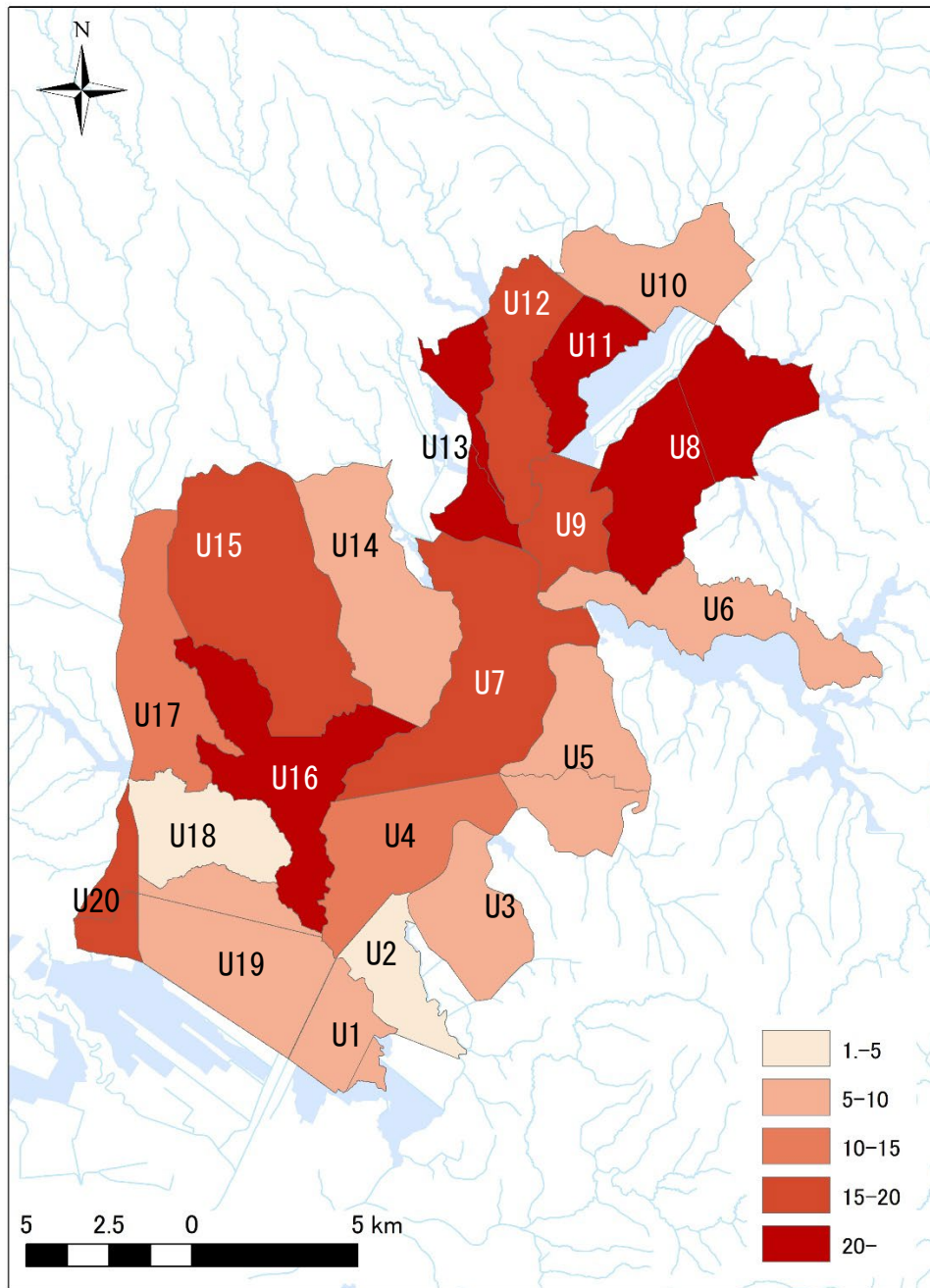


図3 令和2年度のユニット毎の生息密度

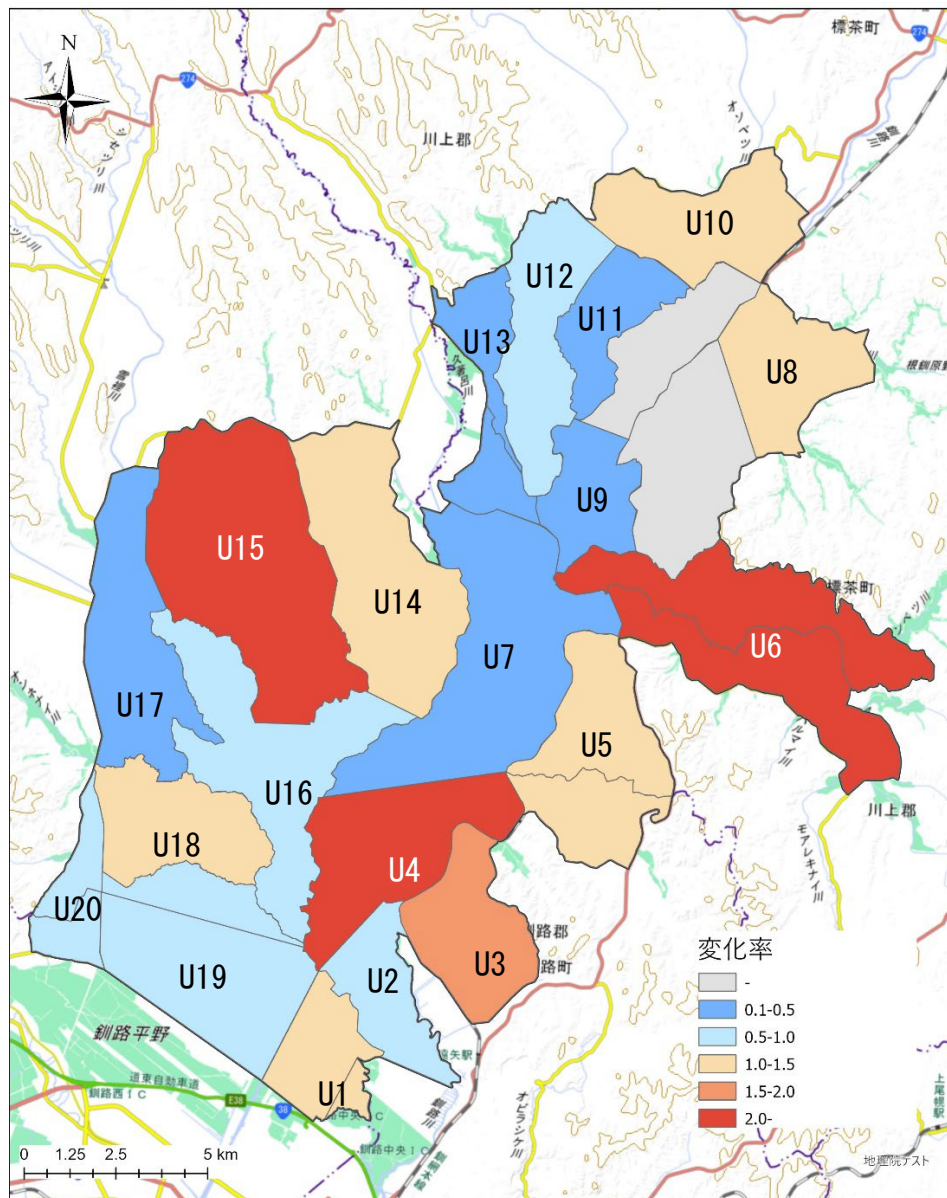


図4 令和2年度と令和7年度の推定密度の比較 (令和7年度 / 令和2年度)

## 5. 所見

- ・令和2年度と比べ積雪が少なく、一部植生が見えている状況で、見落とし率が高くなった。(令和2年度 1.403 に対し令和7年度 1.941)
- ・強度調査の結果を用いて見落とし率の補正値を算出したが、強度調査自体の精度を検討する方法があればより高い精度で推定できる。
- ・密度が著しく増加したユニットと減少したユニットがあり、分布の変化が伺えた。
- ・U18～U20 では捕獲による効果が表れている可能性があるが、積雪による行動変化等検討すべき要因が多い。